



南部中便り

平戸市立南部中学校長 村里 靖

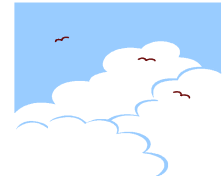
年間スローガン

やる気

あいさつ

思いやり

8・9 平和祈念集会



夏休みも約半分が過ぎました。終業式で話したように、**自律した生活を心掛け、充実した夏休みを過ご**せているでしょうか。

さて、長崎に原子爆弾が投下された8月9日、今年も生徒たちの手による『**平和祈念集会**』を開きました。

山田奈央さん、**里美奈菜**さんの落ち着いた進行で厳かに進められました。**住福紘充**くんのはじめのことは、実行委員長、**岩本悠希**くんの挨拶、校長の話の後、各学年から次のテーマで発表がありました。

- 1年…**広島・長崎の原爆と世界の現状(戦後70年を考える)**
- 2年…**第2次世界大戦と沖縄戦**
- 3年…**戦争と紛争**



核のない平和な世界を私たちの手で

その後、全校生徒と職員が、自分の手形に、平和への思いを1文字の漢字に込めて書いたものを、1つにまとめ上げた、**手のひらプロジェクト**について発表がありました。(右写真) 真の平和を築いていくものは、私たち一人一人であるというメッセージが込められた、すばらしい企画だと感心しました。

休息をはさんで、11:02に**黙祷**を捧げ、3年生が修学旅行で広島に持って行くために全校生徒で折った**千羽鶴**の紹介があり、**南部中学校平和宣言**の採択、**平和の歌「クスノキ」**の斉唱後、**川口勇人**くんのおわりのことばで終了しました。

今回の取組を通して、歴史の事実から戦争の悲惨さや残酷さを学ぶとともに、今なお多くの人々が戦争や紛争に巻き込まれ苦しんでいることを知りました。そして、平和な世界を築くには、一人一人が平和への思いを強くし、その力を一つにして行動していくことが大切であることを学びました。

< 平和祈念集会 校長の話(要約) >

原爆投下という人類史における大きな過ちにまで及んだ第2次世界大戦で、日本では300万人を超える方々が、また、世界中では6000万人を超える方々が犠牲になりました。

今、私たちの日常生活を見る限りでは、平和な毎日が続いているようですが、世界に目を向けてみると、いまだに紛争やテロが起こっています。今は起きていなくても、いつ巻き込まれるかわからない状況です。

悲惨な戦争を語り継ぐ事は大切なことです。真の「平和」を築き上げるために、私たち一人一人が、何をしなければならないのかを考え実行することは、一層大切なことです。

人と人との関わりを良好に保つことが、おだやかで楽しい生活を送ることに繋がります。そんな人と人との関係を国と国との関係にまで広げることができたとき、本当に平和な世界が実現できると思います。そのためには、やはり「**思いやり**」の心を育てることが一番大切です。

「思いやり」を行動に移すときのヒントとして、(腰塚勇人さんHPより)

- 口** は、人を励ます言葉や感謝の言葉を使うために使おう。
- 耳** は、人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。
- 目** は、人の良いところを見るために使おう。
- 手足** は、人を助けるために使おう。
- 心** は、人の心の痛みがわかるために使おう。

